

ドイツ連邦食料・農業省 最新農林漁業情報  
Bundesministerium für Ernährung und Landwirtschaft  
NO 7  
2018・6・9

1 EU共通農業政策（GAP）の委員会提案に光と影（2018・6・1）

共通農業政策の将来のために、EU委員提案に関して連邦農業大臣クレックナーが説明した：EU農業委員 Phil Hogan は、今ブリュッセルにて2020年以降の共通農業政策のための、委員会提案を行った。同時に今集中的な審議プロセスが動き出した。この先の終わりには、2011年からのヨーロッパ農業政策の基礎が生まれる。

我々はこの提案の基本的かつしっかり分析のための時間を、確保すべきである。我々はヨーロッパにおける現代的な、そして持続的な農業を望んでいる。

そのため、この提案は農業の将来に向けて広範囲な提案である。我々は委員会の考えを正確に見つめ、そして自らの具体的な提案を行う。これから我々は、他の加盟国及びヨーロッパ議会と共同で、さらなる決定のプロセスに積極的に尽力する。私はドイツにおいて、自ら各州と並行して意見を交わす。

これはドイツの重要な関心事を、委員会提案の中に配慮することになる。この提案の中に光と影が生ずる。委員会のように我々もまた農業経営の収入確保の基本的な要素として、直接支払いを評価している。農業の多様な課題と社会的要請に応えるために、活力ある農村地域のために、リスクに対する安全確保そして経済的安定性のために、農業者はこの直接支払いを必要とする。なぜならば、農業が死ねば農村地域も死ぬからである。

私は農業環境一気象貢献を、これまで以上になお強力に奨励するという、EU一委員会の目標を歓迎する。農業者が委員会の官僚主義（訳注・補助金申請手続きの簡素化など）から、はっきりと負担軽減されることが、私にとっても重要である。私はこのことを委員会提案の中に、まだ見ていない。新たにそしてさらなる要望が我々の農業者のために、実践的に役立たねばならない。

私は環境貢献のための支払いが、もはや緑化に規定されるべきでないことを歓迎する。しかし、緑化—環境貢献に関する支払いを無くしてはならない。むしろこの直接支払いは、環境貢献に対して明らかに広範に、これまで以上に結びついている。具体的には、環境—気象貢献への支払いの前提条件を創り出すこと。我々は来週このことについて、集中的に議論する。私はこの中で農業者のために、幾つかの実践的に役に立たない問題と視点をみている。

中心的な礎石は、環境活動奨励金の柔軟化である。これは小—中規模経営を適切に奨励すると言う、私の考えに適応している。他方、我々は委員会と異なって 10 万ユーロの義務的予算削減は、適切な手段とみてない。削減の適用を加盟国の決定に任せるべきである。まさにローンコストのように。直接支払いの逡減が適切な財源であるかどうか、我々はチェックする。なぜならば、大きな経営は、小規模経営に比較して生産コスト上有利であるから。

私は、より多くの市場指向性の道を支援し、そのため、研究と革新により強い焦点をあてる。市場指向のために、同じ競争条件もまた含まれる。それ故に、私は結びあわせた支援に踏み出す。特に畑作のように。委員会が自らの提案の中にこれを取り上げてないことは、不十分である。私は加盟国間の直接支払い額のさらなる調整のための提案について、集中的な議論を期待している。これは異なる高い直接支払いの取扱いのための基礎となる（例えば加盟国内での賃金または土地—借地料の大きな違い）。

第2の柱は GAP 多様な目的を達成するために、重要な手段である：

- 農業経営の競争力強化を図るために
- 持続的な農業生産を奨励するために
- 農村地域の積極的な発展のために

我々は新しい実践モデルが、今日よりもさらに強く配慮されることを期待する。この大枠は EU が決定する。具体的な実践は、加盟国において行われる（ドイツは連邦と各州が共同で行う）。これは加盟国内におけ様々な構造と要望が配慮される。我々は GAP の簡素化に際して、議論の必要性をみている：我々の農業者は、より多くの時間を圃場よりもデスク上で過ごすことが、あつてはならない。私は農業者が緩やかでも官僚主義からの負担軽減を望む。これには確かに積極的な関心事が存在する。

しかし、私は EU の提案の中に、農業者のためのより多くの負担もまたみている。私は一連の規則が農業者に結びつき、より多くの負担の生ずることを恐れる。私は実践における簡素化が達成されるよう、具体的な提案を求めたい。新しい GAP においても非官僚主義が、しっかりと確定されねばならない。ドイツに関して重要なことは、以下の点である

農業者は支援と信頼できる大枠条件を必要とし、同時に近代的そして社会的に受け入れられる農業に対する挑戦を、実現することである。ここでのキーワードは、高価値な食料の供給、環一気象保護、世界規模で増大する需要、より多くの家畜の福祉、簡素化と官僚主義の解消並びに近代的、革新的そして競争力のある農業のための、将来的視点の確保である。

私にとって明確である：ドイツとヨーロッパにおける農業者の様に、将来のためにそして農業の良き将来のために、私は GAP の適切な財政を十分に使いこなすこと。これを緊急に必要とする。これを我々は、連立政権協約で決定している。このことをヨーロッパレベルで、今実行することが重要である。

## 2 2017年度農業支払金を公表 (2018・5・23)

これは、ヨーロッパ透明性イニシアチブの分野において、EU 一加盟国が共同で公表した。EU 一農業基金からの共同体財源の受給者に関する情報を、遅くとも毎年 3 月 31 日までに、インターネットで公表することが義務付けられている。受給者の情報公開でもってヨーロッパ同盟は、農業分野における共同体財源を利用するよう、透明性を創り出すことが目的である。

このことは、EU 一農業基金の財政への導入の経済性に立ち入り、社会のための農業の活用と公的な財源の慎重な取り扱いをもたらす。ドイツにおいて連邦食料・農業局が、各州の提出した数値から、公開を委託されている。そしてこの目的でインターネットサイト：[www.agrar-fischerei-zahlungen.de](http://www.agrar-fischerei-zahlungen.de) を運営している。そこには、連邦、各州の支払い受給者に関する EU 一支払センターのデータが公開されている。つまり、ヨーロッパ農業保証基金 (EGEL)、ヨーロッパ漁業基金 (EFF) 並びに海洋一漁業基金 (EMFF) である。

GAP 一改革の過程において、農業支払金の受給者公開のための規定もまた改正された。それによって 2015 年以来、基本的に受給者の中で、再び自然人（個人）も公開されている。

2018・6・7 訳  
青森中央学院大学  
中川 一徹